

平成26年度 事業報告

(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(はじめに)

公益財団法人大阪対がん協会は平成25年8月1日付で設立登記した。法人の事業年度は定款で4月1日～3月31日と定めており、第1回目は平成25年8月1日～平成26年3月31日までとなった。今回は公益財団法人となって2年目の報告となり、平成26年4月1日～平成27年3月31日までの12カ月間の報告となる。

《公益目的事業》

(公1) 普及・啓発活動： 啓発イベント開催・情報発信・がん検診の奨励など

【がんに関する啓発イベント】

▽主催行事

① がん看護セミナー

がん撲滅・啓発講演として企画した「“がん”へのまなざし」を10月25日、大阪市北区中之島の朝日新聞社アサコムホールで開き、107名の参加を得た。基調講演は会長「早期胃がんが見つかった」、副会長「進行性胃がんと診断されて」という胃がん体験談である。シンポジウムは会長、副会長と2人の看護師が参加し「ナースのがん患者へのまなざし」というテーマで行った。がんに関しては特別な防御策はなく、誰もがかかる病気であり、3人に1人はがんで死ぬ時代である。がんに対する知識を十分に身につけ、いざというときに慌てないだけの準備が必要である、と締めくくられた。セミナーの経費は21万円であった。

② 成人病公開講座

大阪府立成人病センター、大阪成人病予防協会とともに4回開催した。いずれも成人病センター講堂(定員140人)で開き、会場は毎回満席となった。府立成人病センターの医師らが中心となり講師を務め、図や表などを織り交ぜて、分かりやすく説明している。

各回のテーマと講師は次の通り。

回数	開催日	テーマ	講師(敬称略)
64回	6月10日	がん患者さんの高齢化:その特徴と対策	中山富雄、和田信、藤田泰信、檜原啓之
65回	9月9日	ここまで進歩した肺がんの診断と治療	西野和美、高見元徹、岡見次郎、手島昭樹
66回	11月11日	がんと口腔衛生—お口の中は幸いのもと、災いのもと?—	藤井隆、平岡慎一郎、大西淑美、望月千枝

67回	2月10日	腫瘍循環器Onco-Cardiology—がんと循環器を結ぶ新しい医療を目指して—	刀禰央朗、黒田忠、塩山渉、岡亨
-----	-------	-------------------------------------------	-----------------

③ がん予防キャンペーン大阪

「がん予防キャンペーン大阪」実行委員会が主催するシンポジウムが10月4日、大阪市中央区大手前のドーンセンターで開かれ、250人が参加した。大阪対がん協会は実行委員会を構成する11団体(主催:11団体、後援:28団体、協賛:2団体)の一つとして15万円を助成した。構成団体はほかに大阪府、大阪市、大阪府医師会などで、事務局は大阪府保健医療財団が担当している。今年度のテーマは「正しく知ろう！大腸がん検診と最近の治療法」で、3人の講師が、「継続検診の重要性」「予防と早期発見・早期治療の重要性」「最近の外科治療」というテーマで講演を行った。大阪府のがん死亡率は全国的に見て高く、検診の受診率は最低レベルにある。この状況を少しでも改善することを期待して行われている。

④ ピンクリボンフェスティバル関西セミナー

(主催は日本対がん協会、大阪対がん協会、朝日新聞社)

ピンクリボンフェスティバルは、乳がんへの関心を高め、検診受診を呼びかける活動として2003年に始まった。2014年度は関西セミナーが10月8日、大阪市北区グランフロント大阪ナレッジシアターで開かれ、350人が参加した。5人の講師が「乳がんに向き合うか」「患者の受けるストレス・不安」「婦人科がんについて」「自分の体験に基づいた検診の重要性」について講演を行った。

▽「共催」「後援」行事

自治体、医療機関、患者団体などが主催するイベントに対して、協会が「共催」や「後援」名義を付けて支援した。方法としては、協会ホームページの「講演会・イベント情報」欄にアップしたほか、朝日新聞大阪版のお知らせ欄「TOWN」への掲載などで広報PRに務めた。また、協会発行の小冊子「進め！がん防衛隊」を参加者に配布した。イベント支援を通じて他団体と信頼関係を築くことに努めた。

【がんに関する情報発信】

① オリジナル小冊子の配布

協会発行のがん啓発小冊子「進め！がん防衛隊」を広く配布し、多くの方にがんを知るきっかけにしてもらった。主催行事などで配布を続けた。また、看護学校や生命保険会社からの問い合わせもあり、大部数の場合は一部60円での販売を行った。

② 協会ホームページ

インターネットによる情報収集の広がりに対応するため、平成22年5月に協会ホームページを開設し5年目を迎えた。内容の充実ときめ細かい更新で最新の情報提供に努めた。26年度1年間の掲載項目数は「協会からのお知らせ」が8件(25年度18件)、「講演会・イベント情報」が14件

(同20件)だった。

③ 事業概要・協会報

12月に「平成25年度事業概要」を発行した。25年度の事業内容や寄付者名簿のほか、がん研究助成奨励金受賞者も併せて掲載した。会報は5月、8月、12月に発行した。

【日本対がん協会関連事業】

「日本対がん協会大阪府支部」としてがん征圧事業で連携、協力を進めた。

① がん征圧月間

9月を「がん征圧月間」として日本対がん協会が展開する各種事業に参加・協力した。メイン行事として福岡県博多市で開かれた「がん征圧全国大会」に専務理事が参加した。共通デザインの「がん征圧月間」と「啓発」の2種類のポスターを100枚製作し、大阪府医師会を主とする関係各団体へ送った。

② 近畿ブロック会議

日本対がん協会と2府4県の支部が、がん征圧事業の報告や意見交換をする近畿ブロック会議が10月7日、京都府のホテルセントノーム京都(京都市南区東九条)で開催された。事前に各支部から出された質問に他支部や日本対がん協会が答えるという形式で、そのほとんどが検診に関する事項である。検診設備を有しない大阪対がん協会にとっては、あまり参考にならないものが多い。

③ 乳がん検診無料クーポン券の活用

日本対がん協会が発行しているマンモグラフィ検診無料クーポン券を活用し、乳がん検診の受診率向上に取り組んでいる。日本対がん協会からは100枚の提供であったが、単独主催のイベントに使用するというので、100枚の追加をお願いした。このクーポン券は看護セミナーに参加された方107名にプレゼントした。残りはプレゼント企画を新聞とホームページに掲載、はがきで201人から応募があり、12月はじめに厳正な抽選で当選者を決めて発送した。

【患者支援活動】

患者会ネットワーク

大阪の二十数団体で構成する「大阪がん患者・家族連絡会」の事務局機能を24年度から担っており、26年度も継続して取り組んだ。26年4月22日から名称が変わり「大阪がん患者団体協議会」となり21団体が参加している。世話人からの依頼により、会議日程のメール送信を担当した。また、大阪府のがん対策担当課(健康づくり課)からも会議日程案内などの送信依頼がありメンバーに送信した。

(公2)がん研究助成： がんの研究、治療に当たる医師、看護師らへの助成

【がん研究助成奨励金】

新進(40歳未満)の研究者・医療従事者を支援する「がん研究助成奨励金」を、協会の目玉事業として取り組んでいる。同事業は協会設立翌年の昭和35年度から始め、今回で55回目を数えた。26年度は「基礎」「臨床および疫学」「看護等」の3部門で15人の受賞者を選び、各30万円を

贈呈した。今年度は計95人から研究成果の応募があり、13人の選考委員が採点した結果をもとに2月17日に開かれた選考委員会(委員長＝堀正二・協会長)で受賞者を選んだ。受賞者は今回で延べ1659人、奨励金の総額は3億8980万円となった。

贈呈式は3月10日、大阪市北区中之島の朝日新聞大阪本社のアサコムホールで開かれ、堀会長が受賞者一人一人に賞状と奨励金30万円を手渡した。受賞者を代表し、看護等の部で受賞した古谷緑さんがあいさつをした。

なお、この事業にはバイエル薬品、大日本住友製薬から特定寄付の形で支援を得た。

受賞者と所属は以下の通り(敬称略、50音順、平成27年3月10日時点)

部門	受賞者氏名	年齢	所 属
基礎	池田 裕香	35	大阪大学大学院医学系研究科臨床遺伝子治療学 特任助教
	王谷 英達	37	大阪大学医学部医学系研究科整形外科学教室 医員
	小関 準	33	大阪大学医学系研究科 特任助教
	内藤 尚道	39	大阪大学微生物病研究所情報伝達分野 助教
	西田 尚弘	39	大阪大学大学院消化器癌先進化学療法開発学寄附講座 助教
	野村 元成	37	大阪府立母子保健総合医療センター小児外科 診療主任
臨床	有田 英之	35	大阪大学大学院医学系研究科脳神経外科学 特任助教
	佐多 弘	37	大阪大学大学院医学系研究科内科系臨床医学専攻血液・腫瘍内科学 特任助教
	杉村 啓二郎	37	大阪府立成人病センター外科 診療主任
	富原 英生	36	大阪大学大学院医学系研究科消化器外科学 医員、大学院生
	古川 健太	34	大阪警察病院外科 副医長
	細川 清人	39	大阪警察病院耳鼻咽喉科 医長
看護等	倉田 貴代美	29	大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻 博士前期課程 大学院生 看護師
	杉田 智子	39	淀川キリスト教病院看護部 主任
	古谷 緑	39	市立堺病院 看護師

選考委員は以下の13氏に委嘱した(敬称略、50音順)

部門	選考委員	所 属
基礎	大道 正英	大阪医科大学教授
	加藤 菊也	大阪府立成人病センター研究所疾患分子遺伝学部門長
	金田 安史	大阪大学大学院医学系研究科長・医学部長
	螺良 愛郎	関西医科大学教授
	森井 英一	大阪大学医学部教授
臨床及び疫学	荒川 哲男	大阪市立大学医学研究科長・医学部長
	今岡 真義	NTT西日本大阪病院総長
	奥野 清隆	近畿大学医学部外科学主任教授
	木下 博明	大阪市立大学名誉教授
	松浦 成昭	大阪府立成人病センター総長
看護等	荒尾 晴恵	大阪大学大学院医学系研究科教授
	今中 基晴	大阪市立大学大学院看護学研究科長
	田中 京子	大阪府立大学看護学部教授

《会員向け事業》

主に賛助会員向けの特典として協会が進めてきた事業について、公益財団法人移行後は「その他の事業(相互扶助等事業)」として、公益目的事業と区分した。26年度も以下のような会員向け事業を継続実施した。

(他1) 賛助会員サービス： 定期的な情報の提供・がん検診の奨励と援助

【情報の提供】

① 協会報

協会報は5月、8月、12月の3回発行した。各1600部印刷し、会員を中心に配布した。26年度1年間の内容は以下の通り。

発行月	主 な 内 容
5月号	平成25年度がん研究助成奨励金を贈呈・受賞者紹介、講演会・イベント情報、会員へのお祝い、がん検診サービス券配布
8月号	役員名簿・評議員名簿、開催報告(リボンの騎士ナイト)、秋のがん検診案内
12月号	平成26年度がん研究助成奨励金の募集内容、秋のイベント報告(がん看護セミナー、がん予防キャンペーン大阪、ピンクリボンフェスティバル関西セミナー)、来春のがん検診案内

② 事業概要

「平成25年度事業概要」を12月に発行した。1200部印刷し、会員のほか、関係機関に郵送した。A4判で50ページ。従来通り事業報告、決算報告、寄付者名簿などを掲載、がん研究助成奨励金の25年度受賞者15人の内容を8ページにわたって紹介した。普及啓発活動の紹介では、協会の主催・共催・後援イベントの一覧表を載せた。

【がん検診の案内・援助】

① 春・秋のがん検診

がん検診は春と秋に行っており、春(4月～5月)は大阪がん循環器病予防センター、秋(10月～11月)は大阪府医師会保健医療センターで、胃、大腸、肺、乳房、子宮の5部位について実施された。春の検診は会報12月号、秋の検診は8月号で案内、受診の勧奨に努めた。検診は26年度1年間では延べ171人が受診した。このうち何らかの所見があった人はいなかった。

会員向け検診への補助として、春は検診受診票の送付切手代の経費として協会が1万円を負担、秋は検診施設の医師会保健医療センターへ10万円を助成した。

② がん検診サービス券

賛助会員への新しいサービスとして23年度から始めた「がん検診サービス券」(千円分)の発行・配布を26年度も継続して行った。検診施設でがん検診を受診し、千円以上の自己負担があったことを証明する領収書をサービス券とともに持参するかお送りいただくことで現金千円か、千円分のクオカードと引き換える。サービス券の利用により、がん検診受診率の向上に寄与する狙いもある。新規入会者を含め賛助会員の全員にサービス券を配布した。サービス券の利用者は26年度の1年間で56人(25年度は61人)に上った。

《協会の運営》

【決算および寄付の状況】

① 26年度末の正味財産は前年度から17万円の減少

今年度の決算は、一般正味財産の部では-117万円。その内訳は、経常収益(収入)が1685万円、経常費用(支出)が1860万円で、経常増減額は-175万円、経常外増減額は+58万円。指定正味財産の部は+100万円で、一般正味財産と指定正味財産の増減額の合計は-17万円、正味財産は前年度から17万円減少した。

正味財産の過去との比較では、23年度(189万円増加)、24年度(96万円増加)、25年度(329万円増加)と、3年連続で増加したが、26年度は大型寄付がなかったこともあり減少した。

② 受取寄付金とその内訳について

平成26年度の受取寄付金(会費を含む)は1774万円で、前年度に比べて498万円減少した。寄付金は23年度(393万円増)、24年度(246万円増)、25年度(205万円増)と増加傾向にあったが、26年度は大幅に減少となった。

寄付金の内訳は、賛助会員からの会費収入が470万円、会員数は753件で前年度に比べ10万円の減少、44件の減少となった。会員のうち、維持会員(年会費2千円以上の個人)は641件、特別会員(同1万円以上の個人または法人)は112件。うち、新入会員は7件、23年度から始めた法人特別会員(同3万円以上の法人)は15件だった。高齢などの理由で維持会員の退会があり、会員数は減少した。

一方、一般寄付は75件、1304万円で、前年度に比べ13件の減少、488万円の減少となった。

【収入増の取り組み】

① 特定寄付の確保

がん研究助成奨励金事業については、2社から計250万円の寄付金を得た。

② 募金型自動販売機

飲料メーカーと連携し、「がん征圧支援」を掲げる自動販売機の設置に取り組むことで、協会の収入増と知名度アップをめざしている。26年度はベルランド病院に新たに設置され、合計8台となった。21～25年度に設置された箇所も含めると、募金型自販機を通じた収入は年間ベースで約148万円に上っており、協会にとって、安定的な財源になりつつある。

以上